

## 東久留米 福祉のまちを目指して

### 知的障害者施設の建設に会員が貢献

#### 野崎市長と社会福祉法人 森の会 “バオバブ” 福田稔理事長に聞く

ひとの命の重さと尊厳をまもり、その人となりの能力と可能性を引き出すことが、声高に叫ばれて久しい。自立できない小さな命は勿論、数多の困苦を乗り越えねばならない障害者の生活支援が、“国家の品格”の形成の上からも今こそ重要課題であろう。

アフリカ マダカスカル島にすくすくと大きく育つ巨木バオバブがある。この名を冠した社会福祉法人森の会バオバブが幾多の難関を潜り抜けて知的障害者ケアセンター施設を昨年12月に大門町に建設した。

本事業に深く携わり、当稲門会の会員（昭和37卒・政経）でもある福田稔理事長に、野崎東久留米市長にも加わっていただき、バオバブの展開、市の福祉行政についてその一端をお話いただいた。聞き手は当会吉川明美幹事（昭和52年卒・教育）

— 私たち東久留米稲門会は“地域社会に貢献する”を設立目的のひとつに置いています。組織立った活動は未だ十分ではありませんが、会員各個が色々な分野で活動しています。本日は知的障害者支援組織の「森の会バオバブ」に焦点を当てて、理事長福田さんと市長さんに種々お伺いしたいと思います。先ずバオバブの性格、理念、目的についてお聞かせ下さい。

**福田さん** バオバブは地域で知的障害を持つ人たち一人ひとりが、仕事を通して社会性・協調性を身に付け、個別支援を受けながら自立する力を養っていく場です。作業や生活を通じて多くの人々の理解を得、障害を超えて社会の一役を担って行きたいと思い、積極的に地域に出て活動しています。

親亡き後の子供の自立生活を支えるために就労支援、技術支援は欠かせませんし、また家に留まらざるを得ない知的障害者をかかえる家族の皆様を少しでも開放してあげることも大切なことです。

— 身近に触れる社会問題としてよく分ります。この度、知的障害者ケアセンター施設が竣工しましたね。心よりご苦労様、おめでとうございますと申し上げたいと思います。

今日に至るまでのバオバブの沿革について概略お話下さい。

**福田さん** 昭和50年4月、地域に障害者の働く場所をつくりたいという願いから、元倉さん（現バオバブ施設長）が中心となって、運営委員会をつくり「広域地域ケアセンター バオバブ」を立ち上げました。私は後年になって携わることになったのですが、以後幾多の障壁を越えて平成13年9月、「社会福祉法人 森の会」を設立し、創設以来30年という歳月を経た昨年12月、大門町に社会福祉法人障害サービス事業施設、4階建て「広域地域ケアセンター バオバブ」の竣工に漕ぎ着けました。

— バオバブ発足当時の障害者福祉面の背景・土壌は如何でしたか



バオバブ

**野崎市長** 障害者が社会にかかわることは殆どない状態で、親亡き後の自立生活など望むべくも無いことであつたと思います。市としてもなんとかしなくてはとの思いで、昭和52年当時は「森の会」は未だ都の認可を得ていませんでしたが、僅かな補助金を差し上げ、会の授産活動のための土地・建物を無償貸与することにしました。そして福祉諸施設の拡充に、国庫補助の獲得に汗を流そう、流さなければならぬと思っていました。

一 森の会の皆様、行政に携わる皆様の苦労は大変なものだったと思います。今日のバオバブに至るまでに乗り越えてきたバリア、ご苦労されたことについてお聞かせ下さい。



野崎市長

**福田さん** なんと言っても施設の建設資金の確保です。この度の新施設建設、諸設備設営に約2億円が必要でした。利用者父兄からの寄付や授産事業・バザーの収益だけでは足りるわけではなく、何としても行政の援助が必要でした。国の認可を受けて国庫補助金を獲得するためには会の資格、体制、理念・方針などの確たるものを国に提示しなければならぬのは当然です。資料は膨大なものとなり、提出しては却下され、また提出しては直されの繰り返しでした。補助金を求める各種障害者団体は東京都で毎年50数件あり、バオバブは平成16年度では国庫補助協議の段階で不採択となっていました。一方で合格もしないのに大金を使ってきたうしろめたさに苛まされながら、これまでの努力、投資を無為にしたいという一心で奮起一転再挑戦し、市長の強力な支えにもあずかって、遂に17年6月20日、東京都で50に余る申請施設の難関を越えて、知的障害者施設4施設のの一つに採択されました。関係者皆一様に安堵し、市側のご尽力に深く頭を下げました。建物の認可を得るのも大変なことでした。設計の細部に至るまで厳しい審査があり、何度も設計変更をしました。東久留米稲門会にも建設設計に通じている人たちがいましたので種々助けてもらいました。



福田理事長

## “金は出せないが汗を出す”

**市長** 18年4月に「自立支援法」が成立し、10月から全面施行が決まって身体・知的障害者のための入所施設の新設や増改築には原則として国の補助が得られなくなりました。勢い近年、国庫補助の要請施設がラッシュして大変な競争となりました。私も都庁に陳情参りを重ね、或いは都議にも支援を仰ぎ、いささかなりとも関わらせていただきましたが、補助金対象施設に採択されたのは何と言っても個々人で資力・気力の限界まで努力した福田さんはじめバオバブの皆さんの語りつくせないご苦労の賜物だと思います。

地方交付税の交付を受けている苦しい市財政の中ではありますが、社会福祉事業団体への補助金として、18年度予算において22,488万円を捻出し、内2,667万円をバオバブさんに割り当て、別途授産活動のための土地と建物を無償貸与させて頂いています。今後も十分な資金は出せませんが汗はかかせて貰うつもりです。

一 前後しますが、福田さんがバオバブに携わった動機は何だったのでしょか

**福田さん** 定年後、地域に役立つ何かをしたい、頭より体を動かしたい、だがストレスのたまることはもう沢山だなどと思案していた矢先バオバブに出会い、その実態に魅力を感じたのが始まりです。施設などを見学して、利用者（編集者注：施設で学び働いている知的障害者）の素直な言動、目の輝き、率直に言って粗末な施設・設備、経営者／スタッフの奮闘振りなどに接し、「よし！やってみよう」と思いました。これからも、施設・設備の拡充・改善、利用者の自立訓練・就労移行支援・就労継続支援などやり遂げていかなければならぬ事柄が沢山ありますが、障害を越えて共に生き共に働く喜びとやり甲斐を感じています。“渾是一團の和気”が私たちの信条です。

一 素晴らしいことですね。ではバオバブの現況について伺います

**福田さん** 現在26名（定員は35名）の利用者がいます。近隣の養護学校卒業の利用者が主勢で平

均年齢は31歳です。一方職員は常勤職員7名、スタッフ14名の計21名です。小さな組織ですが全員一丸となって授産活動を展開しています。車7台で市内1100軒ほどの一般家庭や商店を回り、古新聞・古雑誌・ダンボール・アルミ缶・牛乳パックなどを収集し、業者に納入する資源回収、15ヶ所の公園清掃・草刈、自然食品販売、中央公民館ロビーの喫茶店経営などがその内容です。授産事業はすべて競争入札によって取得しています。この度は新設のケアセンターに自動焼きせんべい機を設置し、「高級バオバブせんべい」を販売することにしています。収益は施設利用者の給与にします。市長さんもお好きなようですから沢山買ってくださいね(笑)。スタッフの確保は大変です。さまざまな苦情を受けたり、給与が低かったり。せめて一般並みの給与にすることが急務と思っています。



吉川さん

一 私たち東久留米に住む者にとって心地よく響く“福祉のまち 東久留米”という言葉を見聞きします。福祉行政全般について市長さんのご見解を頂きたい思います。

**市長** 障害者の数は世界的に増加傾向にあります。医療技術の向上などに連れて、死亡に至ることは避けられても、結果として障害が残るケースが増えていることも指摘されています。

平成18年10月末日で当市の身体障害者が3,895人、知的障害者が689人おられることが確認されています。これらの数値は障害者手帳の発行部数から把握しているものですが、実際の障害者はもっとおられるものと思います。当市の知的障害者の比率は比較的高く、受け入れ施設も近隣他市に比して多いと言われています。当市にも少子高齢化の波が急速に訪れ、現在20%が65歳以上の人で占められています。私は今51歳ですが、65歳になる14年後が高齢化のピークを迎え、30%が65歳以上になると予想されています。市内のある団地では住人の平均年齢が63歳という統計もあります。

福祉の充実は益々重要課題ですが、福祉政策はキレイごとだけでは出来ず、誰が、何時、どういう形で、いくら費用負担をするかが社会全体の大問題で大変厳しい局面になっています。

## 大きく変わる障害者支援のあり方

平成18年10月、“障害者自立支援法”が全面施行され、障害者支援のあり方が大きく変わり、障害者自身の自助努力をより求める方向になっています。市行政にしても福祉政策の再構築が必要です。税で役所は成り立っており、税によるサービスを必要としている皆さんがいます。福祉施策の原資を何処に求め、どうすれば本当に必要なサービスを本当に必要としている市民に提供できるか。何でもやっている時代でない今、地方公共団体も経営的センスを磨かなければダメです。東久留米稲門会の皆さんにも行政運営のお知恵を拝借する機会があるかと思っています。

福祉事業は人と人の繋がりをもって地域ぐるみで取り組むものと思います。褒められようとしてやるのでは真の心のこもった福祉事業は出来るものではないですね。障害を持った姉に“障害の無いおまえに障害者の心が、願いが分るか”とよく言われたものですが、バオバブの新施設を見せてもらって、入口にきちんと並べられたスリッパに大いに感動し、そしてバオバブの皆さんのご努力を改めて感じました。この機会に深甚なる敬意を表したいと思います。

ご承知のとおり東久留米は謂わば住宅都市で事業所が少なく、地元での障害者就労は難しい環境にあると言わねばなりません。福田さんはじめバオバブ職員の皆さんに更なるご尽力をお願いする次第です。行政としても最大限の努力はさせていただきます。

**福田さん** 市長のご尽力、市のバックアップ無しでは今日のバオバブはあり得なかったことを改めて再認識し感激しています。今後ともよろしく願いいたします。

一 本日はお忙しいところ、夜遅くまで長時間お話しいただいて有難うございました。バオバブがその名の通り大きくすくすくと育って行くことを期待し、お祈りいたします。

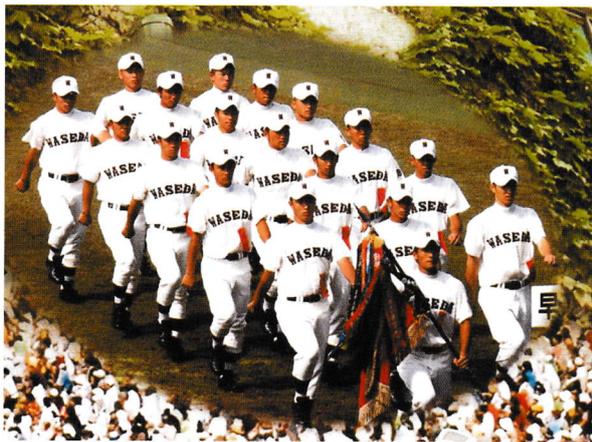
この機会を調整、詳細データを提供いただいた市迫田健康福祉部長、久保田障害福祉課長にもお礼申し上げます。  
(平成18年11月22日収録 於市長応接室)

# 早実初V!

早稲田実業学校初等部事務室課長 大矢 真弘 (昭54年卒・文)

甲子園では美少年エースは最後に涙するというジンクスがあるとかないとか。三沢の太田幸司、東邦の坂本佳一、早実の荒木大輔、東北のダルビッシュ有、いずれも涙の惜敗でした。美少年には悲劇が似合うにも関わらず、厳しい夏の選手権大会、あの偉大な王貞治校友も成し得なかった優勝の栄冠に輝いた斉藤投手、そして早実硬式野球部。

輝かしい歴史と伝統、名選手を輩出している早実の硬式野球部ですが、ここしばらくは10年に一度甲子園に出場できるかどうか、というような状況でした。早実は一般入試も難しく、推薦入試でもチームの実績・学校の成績の基準があり、選手獲得の道は厳しいものがあります。野球の世界では「エースと4番は作れない」とも言われているそうですから。



今年のエース斉藤佑樹選手は群馬県出身ですが、OBから和泉監督に、県下のある中学校に良いピッチャーがいるとの情報があり、試合を見に行ったそうです。監督が言うには、20数年監督をしているが、最高のピッチャーであるのは確かで、しかも一昨年の夏から秋、秋から春、そして昨年の春から夏へと日々成長していたとのことでした。

さて昨年夏の甲子園ですが、甲子園の1回戦、鶴崎工業の後、2回戦大阪桐蔭の中田選手へのインコース高めのストレート、ハンカチは以前から使用していたようですが、このあたりから斉藤投手の評価が上がり、「ハンカチ王子」との愛称がついたようです。

甲子園出場が決まると、学校・野球部・父母の会・校友会そして旅行業者との会議が行われます。例年、8月6日の開幕式前後は、全国的にバスの空きがないとのことで、開幕式初日や2日目になることはないだろうという予想でいたのですが、抽選の結果は、まさかまさかの開幕初日第2試合、その後もお盆や土日がらみの試合になり、バスや新幹線の手配が困難な日ばかりになってしまいました。地方からの高校が専用列車にて甲子園へ来たというニュースは聞いたことがありましたが、国分寺の駅から列車で出発という初めての経験でした。

また、アルプス席の入場券が売り切れのため、多くの校友や保護者からの苦情もあったようでした。ダイスケフィーバーの時との大きな違いは、マスコミの取り上げかたが異常だったことによります。テレビではスポーツニュースのみでなく、様々な番組が独自に取り上げるため、学校には同じテレビ局なのに番組担当ごとに取材の申し込みがあるし、ラジオや新聞、雑誌とくまなく取材依頼がありました。マスコミが視聴率獲得のためなのか「ヒーローを作っては一斉に囃し立て、悪人を作っては一斉に糾弾する」の典型だったように思います。

また、一般の方からの電話も引切り無しにかかってきました。適切でない言葉かもしれませんが、日本には暇な人が大勢いると言わざるを得ません。監督の作戦への批判や、斉藤選手への激励のついでに、よもやま話をする人、毎日同じ内容の話をする人、訳の判らない内容等、様々な電話がきました。荒木大輔氏の時は、若いギャル（もう死語か）の電話や手紙が多かったのですが、今回は老若男女、全国津々浦々から来たような気がします。

先日60歳代の女性から「雑誌に斉藤選手の好きなものが出て、3位に豚汁が挙げられているのを見たので自家製の味噌を送った」という方もいました。平和な日本を実感しました。

いずれにしても、早実野球部の活躍が学校関係者のみでなく、日本の多くの方に感動を与え、高校野球ファンを広めたこと、そして何よりも、「近頃の若者の中にも好青年がいる」ということを大人の世界に広めてくれた功績は大きいと思います。今後は早稲田大学で活躍し、また早稲田の校友の楽しみを増やしてくれることを期待し、祈っています。

## わが早稲田時代

### 「胸に棘さすことばかり」



三田 三 (さんた みつ) (昭和33年卒・政経)

世の中を甘く見て育った軟弱な青年は、四囲を岩壁で囲まれた谷間に一人取り残されたような寂しさと焦りに苛まれていた。

あちこちで青春の挫折を味わいながら満身創痍の態で早稲田に席を得たのは昭和29年。この年、第二福竜丸事件、造船疑獄事件、吉田内閣総辞職と世相は騒然としていたが、学生運動もクラブ活動も我関せずで、その頃の私の軸足は早稲田よりむしろアルバイト先の方に傾いていた。

胸の奥には失意、不安、悔悟などが縋り交ぜになって暗く澱んでいても、若さはそんな意識を何時しか片隅に押しやり、日常は高校の頃からの友達と結構楽しい日々を過ごしていた。その頃の思い出は早稲田のキャンパスより新宿の雑踏に色濃く、その風景や匂いは今も鶴田浩二の歌う「街のサンドイッチマン」の曲と二重写しとなって甦る。仲間と一緒にいる時は、決して美味しいとも思えない焼酎の梅割りやトリスのハイボールに酔って騒いだり、一人の時は喫茶店で時間をつぶしたりし、勉強は単位を取得するために、試験の時だけの一夜漬けに終始したように記憶している。

休日には四季を通じてよく丹沢に登った。山は心を解放してくれる。山登りの道連れは何故か何時も大津美子の「ここに幸あり」であった。そんな教養課程の二年間を終わり、三年生に進んだ頃から、どうしたことか次第に学校の講義が面白くなり、勉強しようという気力が湧いてきた。同時に卒業後の就職のことも気になり始めた。思い切ってアルバイト先を辞めて退路を断ち、少し真面目に授業に取り組むようになった。政治学の吉村正教授の脱線講義などは何時も面白く聴いた。

当時の政経専門課程の試験は、わら半紙1枚ほどの用紙に論述筆記する形式が殆どだった。何十、何百の学生が乱暴な字で書きなぐった答案を教授が丁寧に読むなど不可能だろうとは誰でも推量できる。そこで、どんな問題に対しても、少々見当はずれでも、答案用紙の紙面一杯、一行の空白も残さずに書き綴るという戦術に徹することにした。質より量のこの策は結果的に正解であったように思う。

ゼミは究極平和への可能性を探る何とも遠大な「世界国家論研究」。教授は国家社会主義の研究者であり「マインカンプ研究」の著者として知られた石川準十郎教授。高島素之の高弟として、戦前期は政界でも相当活躍された闘士であったと聞いたが、その頃はすっかり優しい好々爺になっておられ、近代社会思想の講座を担当されていた。脚が少し不自由になっておられたが、何故かこの先生にはよく可愛がって貰った。ご自宅にお邪魔したり、谷川岳の麓、湯掛曾温泉や箱根にあった早稲田の宿にもゼミの仲間と一緒に何回か連れて行って貰ったりした。

就職期を迎えた32年は不況で、就職試験を受けようにも、大方の企業は学校の推薦が無ければ受験することさえ不可能で、広く門戸を開いていたのは公務員と新聞社ぐらいであったが、こういう所は畢竟競争も激烈を極めた。腕試しにと朝、毎、読は避け、ブロック紙のH新聞に挑戦してみた。筆記試験は通ったものの、面接で見事完敗した。就職は結局、ツテを求めて、何とか或る製薬会社にもぐりこんだ。

卒業を間近にした冬、石川先生のお供で箱根に泊まった。

「それで結局、製薬会社に行くことにしたのか」

「ハイ、くすり屋になります」

「そうか。頑張ってくれ」

先生はそう呟かれながら、炬燵の上の土鍋から、好物の湯豆腐を掬って居られた。

人生航路はあみだ籤に似ている。あらゆる局面で右に折れ左に曲がりしながら進む。通ったかも知れない道は無数でも通ってきた道はたったの一本。

「この道こそ自分にとって正解だったのだと思うことが大切」と自らに言い聞かせている。



## 東久留米稲門会小史散歩 (その二) 文化講演会のあゆみ

平成9年度(1997年)より年次総会后、各界の著名人を招いて文化講演会を開催している。今回はその流れを辿ってみる。多士済々の内容豊かな講演は内外から人気を呼び、多数の一般市民も聴講に来られている。(講師肩書きは当時)

- 平成8年4月 坂本信太郎早大名誉教授 『科学技術にはじめまして—現代科学技術と社会』  
 9年4月 日比野弘早稲田大学人間科学部教授・元早大ラグビー部監督  
 『ラグビーに学ぶリーダーシップとチームワーク』  
 10年4月 瀬古利彦エスビー食品陸上部監督 数々の国際マラソンを制覇 『心で走れ』  
 11年4月 マークス寿子氏 評論家・秀明大学教授  
 『21世紀を迎えるに当たって今イギリスに何を学ぶか』  
 12年4月 高西敦夫早大理工学部教授 『人間型ロボット最前線』  
 13年4月 杉本達夫早大文学部教授 『ホットな現代中国事情』  
 14年4月 榎本隆司早大名誉教授 『よしなしごと—いのちひとつ—』  
 15年4月 栄田卓弘早大名誉教授 『反骨の言論人 浮田和民—早稲田大学草創期の巨人』  
 16年4月 川村晃司氏 テレビ朝日報道情報局コメンテーター『ワイドショー—政治の舞台裏』  
 17年4月 村岡洋一早大副総長 『大学からの起業—夢か幻か』  
 18年4月 伊佐九三四郎氏 歴史旅行作家 『海外の山旅から』見聞談とスライド映写  
 19年4月 清水廣宣氏 早稲田大学スポーツ・メセナ研究所研究員 (予定)

## 地域社会のための文化活動

当会会員と校友の他、一般市民にも開放しており、大勢の方が参加されます。

### 映画鑑賞会

年3~4回、なつかしい往年の名画(主に洋画)を鑑賞しています。回を重ねる毎に来場者が増え、最近では毎回、満員の盛況です。



▲「誰が為に鐘は鳴る」

上映前に、当会会員の米光慶二郎さんが解説をしていますが、大変好評で、いつも大きな拍手を貰っています。

＝これまでに鑑賞した映画＝  
 鉄道員(ぼっぼや) 太陽がいっぱい カブランカ  
 恐怖の報酬 誰が為に鐘は鳴る 哀愁 心の旅路  
 断崖 ガス燈 旅情 旅愁 陽のあたる場所  
 麗しのサブリナ ひまわり 黄昏

### 講演会

上述の文化講演会の他に、年数回、講演会(雑学塾を改称)を開催しています。講師には、主として当会会員や近傍地域の一芸に秀でた方、地域に貢献している方などをお願いしています。



回を重ねること20回。受講者の方は熱心に耳を傾けています。

#### ★最近開催された講演会★

- 第19回 平成18年10月「日本語のすばらしさ《手本は桃太郎》」篠田義明氏(早稲田大学名誉教授小平稲門会会員)  
 第20回 平成18年12月「わがまち東久留米のこの景観を守り楽しもう」佐藤雄二氏(東久留米の水と景観を守る会代表 当会会員)

# 多彩な部活動

## 囲碁

伊東温泉での合宿対局

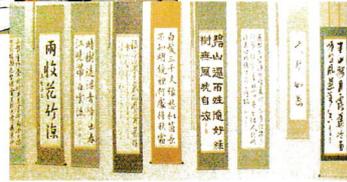


月例の部内対局 年1回の合宿 近隣稲門会との親善対局やオール早稲田囲碁祭などに参加



## 書道

毎月の定例練習 夏の合宿 隔年の作品展の他 市民祭に出品 実用書道も



市民祭に協賛出品

## 俳句



月例会会で兼題と自由句の選句と合評 年2回の吟行 (日帰りと一泊) も

榛名湖温泉郷で吟行

## 太極拳



好天の野外で演舞



毎週土曜日の約1時間半の屋内稽古の他 時々野外での演舞も

# わが仲間は多芸多才です

これらの部活動には東久留米稲門会々員の方はどなたもいつでも参加いただけます

## ウォーク

殿ヶ谷戸庭園にて



2ヵ月に1回のペースで 都内・近郊の寺社や名所旧跡を巡ります

## 山歩き

鳩ノ巣渓谷へ



年2回 澄んだ空気と自然と眺望を求めて近傍の山野を散策します

## 女性サークル



シチズン時計工場を見学

美術館や音楽会の鑑賞 工場見学 近郊散策などで親睦を深めています

## ゴルフ



春秋の部内定期コンペの他 東久留米三田会との交流試合なども行います

春の部内コンペ

## グルメ



路地裏のかくれた名店の味を求めて 年2~3回 グルメ探訪を催行します

住宅街の手打ち蕎麦店で

## カラオケ

年数回 楽しく飲み食べながら歌い ポケを防止し ストレスを解消しています



時の経つのも忘れ熱唱!

新企画「秋の男料理を楽しむ会」に舌つづみ

旨かった!

# 男料理

稲門会

60超えの男有志達の料理を会員の方々に食して頂き、秋の懇親会を盛上げようという趣向です。2年前今回と同じメンバーと献立で試行したことがある自信作でしたが、料理室の面々は何時に無く真剣な表情で料理に取り組みました。

汗だくとなりサラダを9皿つくる者、昨日から寝かしておいた具を持参して300ケの餃子を作る者、おでんの煮方についてよってたかってワイワイガヤガヤの俄かシェフ。

当方のもくろみとしては美酒でシコタマ酔わして日頃の味感を狂わせて・・・という魂胆でしたが上々の出来で安堵しました。

次回からは先輩の方から順に、又は隠れシェフの登場を願って会を盛上げ、食を二倍にも三倍にもして楽しみたいと思ってます。(松崎 博)

- |        |       |
|--------|-------|
| 銘酒     | 各種豊富  |
| 刺身盛合   | 帆角、森田 |
| サラダ類   | 鮎貝    |
| おでん    | 比護    |
| 餃子     | 平山    |
| 蕎麦     | 松崎    |
| 燕巣スープ  | 久家    |
| 焙餅ローピン | 馬場    |
| 漬物     | 平山    |
| コーヒー   |       |



平成18年10月14日(土) 参会者44名 於成美教育文化会館

## 皆さん、一緒に校歌を歌いませんか

会長 帆角 信美

われらが母校・早稲田大学の校歌を覚えていますか。皆さんは恐らく1番なら歌詞を見ずに歌うことができるでしょう。では、2番、3番はどうですか。恐らく3番目まで歌詞なしで歌える人は少ないのではないのでしょうか。昨年夏、甲子園球場を沸かした早稲田実業も勝利のあとに奏でられるのは早稲田の校歌ではなく、伝統ある早実の校歌でした。歌いたくても歌う場も時もなく、いつしか歌詞を忘れてしまう—それが寂しい現実でした。ところが、校歌をおおっぴらに大声で歌える場があるのです。それは東久留米稲門会の定例総会の場合ですし、新年会や納涼会の場合です。定例総会では懇親会のあと100名くらいの出席者が、新年会や納涼会では50名くらいの出席者が、指揮をする人のもと、大きな声で一斉に歌い出します。皆さんは、歌っているうちに歌詞がふつふつと記憶からよみがえるとともに、一気に学生時代の気分に戻り、若き血が体内を駆け巡り、爽快な気分になってまいります。

もちろん、東久留米稲門会は校歌を歌うために設立された組織ではありません。3つの大きな目的—①会員同士の親睦②早稲田大学発展への寄与③東久留米市発展への寄与—を掲げて、現在166名の会員が、時には家族や友人知人の協力や参加を得ながら活動しております。そして、活動したあとは共に語り合い、時には最後に校歌を歌って英気を養っています。稲門会に入って一緒に活動し、一緒に校歌を歌いませんか。皆さんの入会を心からお待ちしております。



## 平成18年度 東久留米稲門会の活動

**[行事]** ▼4月9日第12回定時総会 来賓10名、会員出席者73名。文化講演会会員伊佐九三四郎氏「海外の山旅から」。▼1月21日新年会 成美会館、参加者34名。▼10月14日秋の男料理を楽しむ会 成美会館、参加者44名。▼役員会2、3、6、8、10、12月6回開催。▼講演会 10、12月2回開催。▼ウォーキングを楽しむ集い 2月向島百花園から浅草、4月盆栽村から大宮公園、6月東御苑から靖国神社、10月国分寺跡・殿ヶ谷戸公園から滄浪泉園、12月両国吉良邸跡から新橋へ。▼映画鑑賞会2月「陽のあたる場所」4月「麗しのサブリナ」8月「ひまわり」。▼カラオケを楽しむ集い7月、12月開催。▼東京六大学野球・早慶戦を観戦する集い 5月中止、10月。

**[広報]** ▼会報「杜の西北」 6月第12号発行。▼東稲ニュース 1、3、5、7、9、11月6回発行。▼ホームページ 杜の西北12号、東稲ニュース27号から掲載。▼7月会員名簿発行。

**[部会活動]** ▼女性サークル 2、6月グルメ部共催サントリービール見学、11月シチズン見学。▼ゴルフ部会 4、10月開催 6、11月三田会対抗戦。▼俳句部会 (例会) 1、3、5、9、11、12月 (吟行) 4月柳瀬川、10月榛名。▼書道部会 毎月第二日曜日開催、9月谷川温泉錬成会、11月市民文化祭参加▼囲碁部会 毎月第四日曜日碁会 5、9月オール早稲田囲碁祭、11月伊東温泉合宿。

### 平成18年度 東久留米稲門会収支決算書

(自平成18年1月1日 至平成18年12月31日)

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
総会費	334,953	総会収入	
通信費	40,650	(62名×5000)	
印刷費	58,765	(2名×2000)	314,000
消耗品費	45,199	年会費	
交際費	98,000	(16名×3000)	507,000
会議費	15,300	祝金	20,000
部会補助金	90,000	校友会補助金	99,000
「杜の西北」		利息	27
制作費	74,195	雑収入	68,663
ホームページ	30,000	前期繰越金	290,069
イベント			
補助金	69,338		
寄付金(大学)	44,500		
弔慰金	26,250		
繰越金	371,609		
合計	1,298,759	合計	1,298,759

▼太極拳部会 毎週土曜日、5、10月野外演舞、10月5周年祝賀会。▼グルメ部会 6月女性サークル共催割烹番場屋、11月手打ち蕎麦「すず木」。▼散策山歩き部会 5月天候不順で中止、11月鳩ノ巣溪谷15名。

[大学校友会との交流] ▼代議員会 3、9月。▼商議員会 7、11月。▼早稲田大学ホームカミングデー 10月。▼125周年記念事業募金294,000円(147名)、募金累計額(当会名義分含む) 2,201,500円。

[近隣稲門会との交流] ▼東京23区支部・三多摩支部会長懇話会 10,12月。▼東京三多摩支部会長会議 10月、同支部大会11月。▼西東京稲門会総会 5月、清瀬稲門会総会 10月、東村山稲門会総会 11月、小平稲門会総会 11月。

[東久留米三田会との交流] ▼第4回定時総会 4月。▼ゴルフ対抗戦 6、11月。

## 平成19年度事業計画

- I 基本方針 1) 会員相互の親睦をはかる。2) 早稲田大学の発展に寄与する。3) 東久留米市の発展に寄与する。
- II 実行計画 1) サークル活動の推進。2) 広報活動充実。3) 近隣稲門会、三田会との交流活発化。4) 125周年記念事業募金の推進。5) 校友会会費納入キャンペーンの協力。6) 大学、校友会主催会議、行事への参加。7) 三多摩支部主催行事への参加。8) 映画鑑賞会の定期開催。9) 当会主催講演会の定期開催。10) 新企画の開発と実施。
- III 会員増計画の推進 1) 魅力ある当稲門会を多くの校友に知ってもらう。2) 会員周囲の未加入校友に働きかけをする。3) 総会案内、「杜の西北」配布時に入会を働きかける。

早稲田を思い、東久留米を語るコミュニティ

### 東久留米稲門会入会のお勧め

親睦、自己啓発、母校・地域社会への貢献を目的としています。政治、経済、宗教とは一切無縁です。身近にコミュニティを広げませんか。体を鍛える、或いは趣味を生かすための多彩な部会があります。お望みの同好会の創設も可能です。

**入会をお待ちします**

年会費3000円。入会金不要。



お問い合わせ・お申し込みは・・・事務局・平山正徑 TEL 473-3289 まで

哀悼・・・やすらかに眠りください

平成18年8月24日没

泉 實さん (29年卒・政経)

**ポケットパーク (編集後記)** ○歴史、伝統、繋げ! エンジの襷。早大創立125周年の年がやってきた。集まり散じた者たちが再び集い、時代の流れを語り合うことになるだろう。叶う事ならひとりも欠けることなく全員で元気に会いたいものだ。○落合川に翡翠(かわせみ)が見られ、黒目川に鮎が遡上しているという。われらが町、東久留米にも昔日の自然が徐々に蘇って来ているのだろう。“美しい”都市・社会の創造に些かなりとも関わりたいと思う。○本号は各編集員がそれぞれコラム(頁)を分担してそれぞれにデザインしたものを集結し、編集したものである。出来るだけ写真も取り入れた。結果、文章編は各所で短縮、省略させてもらった。皆様のご批判を仰げれば幸いです。(比護)

「杜の西北」第13号 2007年3月発行

発行人 帆角信美  
 編集人 比護喜一郎  
 編集委員 鮎貝盛和 市川英雄 神田尚計  
 佐々木洋一 高橋哲男 菱山房子  
 松崎博 森田隆 山岡恭子  
 事務局長 平山正徑  
 題字 高橋勤  
 印刷所 明文社 TEL. 042-345-8619  
 URL: <http://homepage2.nifty.com/35292/>